

の検討を始めた。若麻績信昭寺務総長は理由に「ト問題を考慮した」と説明した。

西日本新聞

夕刊

西日本新聞社
福岡市中央区天神一丁目
4番1号 (郵便番号810-8721)
©西日本新聞社 2008年

4月18日

金曜日 2008年(平成20年)

電話 092(711)5555 (代)
社会部 5222 経済部 5210
地域報道センター 文化部 5260
5225 運動部 5230

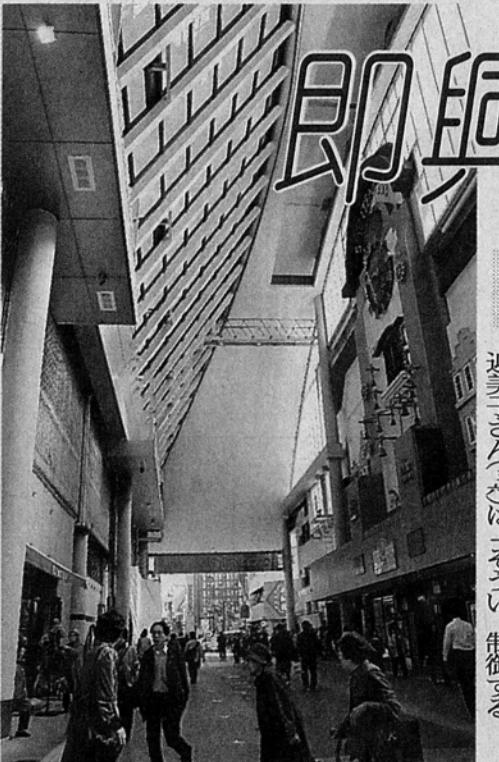
紙面の問い合わせ
読者室 092(711)5331
平日10~18時 土曜~14時
(日・祝日休み)

購読・配達の案内
0120-44-0120
(通話無料) 7~21時

ホームページ
<http://nishinippon.co.jp/>

財政制度等審議会(財
の諮問機関)は十八
年前、会合を開き、二
十九年度の予算編成の
方針について本格的
論議を始めた。地方自
治の財政健全度を示す
指標を国に当てはめる

市本の八女中央大茶園



時計塔から流れるチャイムに加え、新設のスピーカー（左上）からさまざまな音が流れ、心地よい空間をつくる

—福岡市中央区天神の新天町商店街

即興癒やしの音色♪

雑音、明るさから“作曲”新装置導入

福岡市・新天町 メルヘン広場

ピエロ人形のからくり時計で親しまれている新天町商店街（福岡市中央区天神）の「メルヘン広場」に、「癒やしの空間」を生み出す最新の音響システムが二十三日から導入される。周囲の雑音や明るさに合わせて、コンピュータが人に心地よい効果音や単音を即座に組成し、広場に流す。全国的に珍しいシステムという。

（文化部・平原奈央子）

音響システムの最終調整が行われた十二日のメルヘン広場。時計塔の針が三時を指すと、ピエロの人形が飛び出し新天町名物の「メルヘンチャイム」が鳴り響いた。チャイムが終わると、ピンポン、ティン…の音。高さや音色の異なる単音が飛び交い始めた。カサカサ、ブクブク…。耳を澄ますと、木々がそよぐような音や、泡がはじける音も聞こえる。

商店街に買い物に来ていた福岡県春日市の保育士、迎美子さん（五〇）は「そういう

一環として導入した。新設のドーム状アーケードに付けた計十一個のスピーカーを、コンピューターが自動制御する。

中村・九大院教授開発「親しみある商店街に」

開発を手掛けた九州大学芸術工学研究院音響部門の中村滋延教授（五七）によると「メルヘン広場」は、バスの走行音をはじめ、人の話し声や足音、商店街から有線放送など雑多な音が混交している。そこで騒音の周波数の領域とは別の、人間が心地よいと感じる周波数の音を刻意と組成し、流し続けることで、騒音と分離した快適な音響空間が生まれるという。

また、センサーで広場内の光量も感知し、朝昼夜の明るさで活動を変える人間の生理に合わせて、音の密度（頻度）を変化させる。音楽を使わないのは、人によって好き嫌いがあり、とにかくストレスになるためといふ。大売り出しや祭りなど「ハレ」の日には特別な音演出をする。

中村教授は「心地よい音演出で若い人からお年寄りまで親しんでもらえる待ち合わせ場所になれば」と話す。

の手摘みで、若草色の柔らかな新芽を丁寧に摘み取った。

八女中央茶共同組合の中嶋実組合長（五九）は「遅霜の影響もなく、適度な降雨のおかげで素晴らしい出来。生産者の愛情が新芽に出ているよう」と頗るほころばせていた。新茶は二十二日に初入札があり、店頭に並ぶ。